

国立国語研究所学術情報リポジトリ

世界の言語研究所（1） 国立国語研究院（韓国）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1988

国立国語研究院 (韓国)

生越 直樹(東京大学)

1. 設立の経緯・目的

国立国語研究院(以下、研究院と略す)は、1991年にそれまで学術院付設の任意研究機関であった「国語研究所」を拡大改編し、文化庁直属の機関として新たに設立されたものである。設立の目的は、「国の言語政策に必要な資料を科学的・体系的に調査・研究し、正書法と標準語およびことばづかひの規範を整えて、格調高い言語生活の基礎を固め、さらに言語関係資料を収集・発刊し創造的な文化事業を遂行することにより、民族文化の発展と育成に貢献する」こととされている。

2. 機構

現在、「語文規範研究部」「語文実態研究部」「語文資料研究部」の3つの部が置かれ、職員数36名、そのうち研究員は22名である。現在の院長は李翊燮(イ・イクソプ)ソウル大教授で、歴代の院長はいずれも大学の教員による兼任(期間は2年、再任あり)である。3つの部の部長のうち2名もやはり大学の教員が兼任する形になっている。

3つの部の業務は次のとおりである。

1. 語文規範研究部(現在、辞典編纂を行う辞典編纂室が置かれている)

- ・ことばの規範の研究およびその確立 ・ハングルの機械化・科学化
- ・各種国語辞典の編纂

2. 語文実態研究部

- ・ことばの醇化およびことばづかひの標準化 ・国語の海外普及
- ・南北間の言語統一の方策に関する研究

3. 語文資料研究部

- ・国語の研究資料の収集管理 ・国語学および国語政策関連文献の目録刊行
- ・国民の言語生活に関する問い合わせの処理

このほか、図書資料室があり、1996年現在で9,694冊の書籍が所蔵されている。

3. 現在行われている研究事業(報告書名は日本語に訳す)

①「総合国語大辞典」(仮称)の編纂発刊

現在、研究院が最も力を入れている事業である。この辞典は、一般原則だけを定めたハングル綴字法や標準語規定を辞典というかたちで具体化し、言語生活の標準を示すことをめざしている。したがって、ことばの実相を示すより、規範辞典としての性格が強いものになりそうである。編纂作業は1992年から着手され、予定では見出し語数50万で1999年末の完成をめざしている。辞典編纂のために辞典編纂の基本的方針を立てる辞典編纂推進委員会(関係専門家12名で構成)が置かれ、実際の編纂作業は、語文規範研究部に置かれた辞典編纂室(研究員8名、そのほか編集員22名、

調査員21名)が担当している。辞典の原稿は外部の執筆委員(約150名)に委託し、1995年までで33万項目が完了している。編纂作業と同時に、語彙用例収集のため電算機によるコーパス作りも進められており、最終的には、5千万文節のコーパスの構築を予定している。辞典編纂に関連する報告書としては、「国語辞典での派生語の処理に関する研究」(1992)、「国語語彙の分類目録についての研究」(1993)などがある。

②言語の南北間の違いについての調査研究

南北間の言語の違いについての調査研究は、研究院の主要なテーマの一つである。これまでに、「北韓の言語政策」(1992)、「北韓の国語辞典分析(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)」(1992,1994,1994)、「北韓の漢字語外来語使用実態調査」(1994)などの報告書が刊行されている。

③ことば・ことばづかいの実態調査およびその標準化作業

研究院は、ことば、及びことばづかいについての実態調査を行うとともに、その標準を示すという役割を担っている。これまでに各方面で使われていることばの実態調査(「公共機関の案内放送の文についての調査研究」(1991)、「外来語使用実態調査(1991)」)を行ってきた。同時に、敬語などのことばづかい(「国語の礼節」(1991))、植民地時代などに入ってきた日本語、あるいは最近の外来語の朝鮮語化(「国語醇化資料集」(1991,1992,1994,1994))、外来語の表記(「外来語表記用例集」(1993,1995))などについて、標準化のための具体的な語形・用法を示してきた。

④東洋三国の漢字標準化

韓国、中国、日本で使われている漢字の共通化を図るための会議・シンポジウムを行っている。日本の国立国語研究所からも研究員がシンポジウムに参加したことがある。「漢字使用実態調査」(1992,1993)、「東洋三国の略体字比較研究」(1992)などの報告書が出ている。

⑤コンピュータによる言語処理

コンピュータでのハングルキーボードや文字コードの問題、さらにはコンピュータによる言語処理についても研究がなされている。報告書としては、「コンピュータのハングルキーボードについての研究 一字母結合頻度調査一」(1992)などがある。

⑥「国語学年鑑」の発刊/機関誌「新国語生活」の発行

「国語学年鑑」は1992年から毎年1冊ずつ刊行されている。「新国語生活」は季刊で1991年から刊行されている。ただし、いずれも各機関への配布のみで市販はされていない。

なお、これらの研究事業の一部(たとえば、辞典編纂に関する調査研究やコンピュータに関連する調査研究など)は、外部の研究者に委託する形で行われている。

このほか、研究院にはことばに関する問い合わせ電話(kanata電話)が設けられ、一般の人からの質問を受けている。質問とその回答をまとめた「‘kanata 電話’資料集」(1992)がある。また、「韓国語専門家派遣および在外同胞招請者の研修」などの対外活動や朝鮮語に関する国際シンポジウムも行っている。

これまで、朝鮮語については、ことばの実態を探るための基本的な資料がほとんどなかった。

研究院から刊行されたさまざまな報告書は、今後の朝鮮語研究に大いに貢献することであろう。ただし、現在は報告書が市販されていないため、希望しても入手しにくい。できるだけ早く報告書が市販され、多くの研究者に利用されることを望む。

研究院についてさらに詳しい内容を知りたい方は、次の文献を参照されたい。

朴 良圭 (1996) 「韓国の言語問題と国立国語研究院の現況」『第1回国立国語研究所国際シンポジウム報告書：世界の国語研究所—言語問題の多様性をめぐって—』 pp. 30-41

研究院の住所等は以下のとおり。

國立國語研究院 (국립국어연구원)

100-120 韓国 ソウル特別市中区貞洞5-1 (徳壽宮)

Tel. +82-2-779-4812~4818, Fax. +82-2-779-4819

The National Academy of the Korean Language

5-1 Chong-dong (Toksugung Palace), Chung-gu, Seoul 100-120, KOREA

Tel. +82-2-779-4812~4818, Fax. +82-2-779-4819